

東京都作業療法士会ニュース

編集：東京都作業療法士会広報部 発行：会長 田中勇次郎

東京都作業療法士会発足 40周年に寄せて

東京都作業療法士会発足40周年を迎えられましたこと、心よりお祝い申し上げます。

これまで、東京都作業療法士会の活動にも微力ながら携わらせていただいただけに、我が事のように嬉しく思います。

東京都作業療法士会の活動を通して、私が常に考えていたのは、「作業療法士あるいはリハビリテーション職が、東京都内にお住まいの全ての皆様にとって『役に立つ必要な存在』として身近に感じていただくこと、そして、そのために作業療法士個人が質と技を磨き、専門職としての誇りを育くむことのできる環境を設けること」でした。これらは、作業療法士個人々の臨床における弛まぬ努力と職能団体のバックアップがあって実現できるものと信じ、様々な士会活動に取り組ませていただきました。特に力を入れていたのは、一般都民への啓発・啓蒙、情報の収集と公開、教育・研修機会の創出、職域拡大です。それらを担う広報部（事業部が設けられていない時期は広報部・事務局が事業を企画・運営を担当していました）や教育部活動に奔走していたことを懐かしく思います。また、情報連携や人材育成に関しては、東京都理学療法士協会や東京都言語聴覚士会との連携事業にも注力しておりました。3団体が協力・連携することで、大きな力が生まれ、東



京都民や東京都政に対して、リハビリテーション職の有用性をアピールすることができました。

長井 陽海（特定医療法人社団研精会
介護老人保健施設デンマークイン若葉台
（東京都作業療法士連盟 会長）

しかし、活動を続けていく中で、作業療法士の役割や有用性が十分な周知に至らない、大幅な需要拡大・職域拡大に繋がらない、都内自治体政策に登用される機会も少ない等の課題に徐々に焦燥が募ってもしました。そして、2016年4月、これらの課題の改善を図るため、東京都作業療法士連盟を設立し、活動の場を移すに至りました。設立から6年が経過致しましたが、残念ながら芳しい活動成果は挙げられておりません。今後も東京都作業療法士会と手を取り合い、東京都内に勤務する作業療法士の未来を明るくできるよう、今後も精一杯尽力する所存です。東京都作業療法士会会員皆様のご協力ならびにご支援をお願い申し上げます。

長井 陽海

最後になりますが、東京都作業療法士会の今後益々のご発展と作業療法士の皆様のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

CONTENTS

- ◆ 東京都作業療法士会発足40周年に寄せて…①
- ◆ 墨田区通所型サービスC事業の受託と実施報告…②
- ◆ OTが関わる災害対策Vol 8
都士会の災害リハ支援に関する人材育成
～第14回JIMTEF災害医療研修への参加～…③
- ◆ 事業部活動報告…④
- ◆ 東京都作業療法士会ホームページの改修について…④
- ◆ 子ども委員会活動報告…⑤
- ◆ 地域支援事業に関するアンケート調査のお願い…⑤
- ◆ 委員会としての今後…⑥
- ◆ 認知症にやさしい本の紹介 VOL.35…⑥
- ◆ 介護保険における軽度者（要支援、要介護1）への
福祉用具例外給付について…⑦
- ◆ 福祉用具部から動画配信のお知らせ…⑦
- ◆ 高次脳機能障害の方の自動車運転支援を
どう考えるか…⑧
- ◆ 就労支援委員会からのお知らせ…⑧
- ◆ 生き心地の良い町 この自殺率の低さには理由がある
（岡檀 講談社2016）を読んで…⑨
- ◆ ブロック活動のお知らせ…⑩
- ◆ 第19回東京都作業療法学会実行委員会が
発足されました…⑫
- ◆ 編集後記…⑫

OTが関わる災害対策Vol 8 都士会の災害リハ支援に関する人材育成 ～第14回JIMTEF災害医療研修への参加～

保険部 永吉 隆生

災害時、都士会はOT協会やJRATと協力して災害リハ支援を行う。災害リハ支援の拠点となるJRAT災害対策本部の運営要員の要件として、災害研修の受講を設けている。そのため、都士会では災害時にJRAT災害対策本部で活動できる都士会員の人材育成として、災害研修への参加を勧めており、今回JIMTEF災害医療研修へ参加したため報告する。

災害医療研修

2022年6月4日～7月10日に、国際医療技術財団(JIMTEF)主催の災害医療研修ベーシックコースがオンデマンド形式で開催された。研修にはリハ専門職(OT、PT、ST)の他に柔道整復師、鍼灸師、あん摩マッサージ師、Ns、栄養士、臨床心理士、精神保健福祉士、歯科技工士等の医療関係職種が参加した。本研修は全17回の講義で構成されており、災害派遣医療チームDisaster Medical Assistance Team (DMAT)事務局に所属する講師により行われた。

<研修構成>

No	講義	講義時間 (分)	受講時期
1	災害医療概論	60	1週目
2	東日本大震災・東京電力福島第一原発事故に対する医療対応	40	
3	避難所アセスメント	50	
4	災害と栄養	30	2週目
5	災害と生活機能	50	
6	災害時のメンタルヘルスケア	50	
7	災害医療コーディネーター	30	
8	本部運営と記録	30	3週目
9	熊本市における救護班の調整と受援経験	30	
10	被災者の医療人の円滑なコミュニケーションのために	60	
11	スフィアプロジェクト	30	
12	エコノミークラス症候群	30	4週目
13	災害対応の国際的潮流	30	
14	災害と感染症	60	
15	災害と口腔ケア	30	
16	災害と透析	30	
17	災害と高齢者	30	
合計		670	

研修内容

災害の全体像がつかめる構成となっており、災害の原因となる環境問題等の社会背景、医療体制、災害後のフェーズから、栄養やメンタルヘルス、エコノミークラス症候群等の基礎知識まで多岐に渡った。また、本部運営における記録『クロノロ』、本部から現場への指揮系統と情報伝達の方法、避難所でのアセスメントの際に重要となる視点、そして事例を通じた現場での支援活動についての紹介も行われた。東日本大震災を例とした災害時にみられる感染症の症候別鑑別診断に関する講義もあり、新型コロナウイルス流行下における災害時の感染症拡大を防ぐために、支援者は感染経路と予防策を事前に把握する必要があるとのことであった。

災害時のリハ支援とJRATの活動

災害発生時、東京都は二次保健医療圏ごとに指定している12圏域の地域リハ支援センターを拠点に本部運営を行い、災害リハ支援が円滑に行えるように支援体制を整えている。JRATは災害のフェーズに合わせ、主に災害弱者や被災高齢者の生活不活発病への予防や自立生活の再建に向けたリハ支援を提供する。災害時にJRATの東京本部では、本部活動支援(ロジスティック)の研修を受けたメンバーを中心に、現地や各支援団体との連携、派遣するリハ職の募集、現地への引き継ぎを行う。今後、災害発生時には、災害支援チーム、現地対策本部、医師会、行政等と信頼関係を構築し、被災地域のニーズに沿った支援が行えるようコミュニケーションを図っていく必要があると感じた。実際の災害時に本部活動が行えるように引き続き研鑽を積んでいく。

事業部活動報告

事業部 伊藤 啓史

こんにちは。東京都作業療法士会事業部です。

9月25日は『作業療法の日』でした。皆さまご存知でしたか？

事業部として、昨年度から啓発活動として、SNS（主にInstagram）で告知を行っております。

昨年度は、オリジナルデザインのステッカーを作成しました。都士会員へ配布し、貼り付けた所を投稿して頂くなど反響を頂きました。

本年度は、職場で使用している作業療法の道具や作品を掲載致しました。こちらにも、たくさんの「いいね」を頂きました。見て頂いた方、拡散して頂いた方、この場を借りてお礼申し上げます。

また、フォロワーも10月現時点で178名と、たくさんの方にフォローを頂く事ができました。中には、他の県士会や企業からもフォローを頂き嬉しい限りです。「いいね」の数も、Instagram開設当初から増えており、たくさんの方に見て頂いていると思うと、より一層活動に力を入れる事が出来ます。重ねてお礼申し上げます。

是非、まだご覧いただけていない方、よろしければ、「いいね」と「フォロー」をお願い致します。



東京都作業療法士会ホームページの改修について

広報部 池上 洋

こんにちは。広報部からのお知らせです。

9月にホームページの改修を行い『自治体、他職種の方へ』と『各種ダウンロード』のページを作りました。

『自治体、他職種の方へ』のページは東京都作業療法士会が自治体や他団体からの依頼を受け様々な活動を行なっておりますが、それらの内容や新たに依頼を行いたい際のお問合せ窓口を簡明にするために作成いたしました。

『各種ダウンロード』のページは東京都作業療法士会が発行しておりますニュース、リーフレット等や各委員会主催の研修会等の資料、事後配信などを配布するために作成いたしました。

広報誌OTOの創刊号から、都士会ニュースの2021年度から最新号が紙面での発行と同時にダウンロードし閲覧する事ができております。他職種や他県士会の方々への東京都作業療法士会広報にお役立て下さい。

子ども委員会活動報告

子ども委員会 上田 敏宏

2022年10月10日に子ども委員会主催『学校×OT～外部専門家連携の実際～』と題してオンラインの座学研修を開催しました。参加者は北海道、長野県と都外からの受講や、OTだけでなく、PT、教員、学生と様々な方に参加いただき、興味関心の高さを感じました。

前半は、『外部専門家連携におけるOTの役割 特別支援教育と作業療法』という講義でした。外部専門家としてどのように介入するのか、様々なモデルを通して説明していただきました。また作業療法士の強みを活かして活動と参加へつなげていくこと、特別支援教育と作業療法とは異文化交流であり、外部専門家は学校を理解して介入していく必要があるという内容でした。

後半は、東京都教育委員会より講師をお招きして、『東京都の特別支援教育の現状と課題、専門家連携に望むこと』という講義でした。特別支援学校と専門家連携の経緯や歴史、外部専門家と教員がどのように連携するのかを丁寧に説明していただきました。また今後の学校教育の方向性として、指導の個別化、学習の個性化を進めていくことやGIGAスクール構想の話をしていただきました。これは今後、教育の枠組みが大きく変わり、それに伴って外部専門家として求められることも変わっていくかもしれないと思いました。

現在、子ども委員会では、研修会の企画を練っております。詳細が決まり次第、改めて周知させていただきますので、その際には、ぜひ参加をご検討ください。

地域支援事業に関するアンケート調査のお願い

地域包括ケア対策委員会 亀井 将太

介護予防・日常生活支援総合事業が始まり、東京都でも様々な地域で事業が行われています。自治体からも作業療法士の活躍に熱い期待が寄せられております。

当委員会では、2020年度に地域支援事業（介護予防・日常生活支援総合事業や包括的支援事業など）に関するアンケート調査を行い、290名の方にご回答いただきました。ありがとうございました。今後も定期的に東京都作業療法士会会員の参画状況を把握し、人材育成や地域支援事業の推進に活かしたいと考えています。そこで、今年度も都士会員を対象に地域支援事業への参画状況を調査させていただくことになりました。

事業への参加・不参加に関わらず、多くの会員の皆様にアンケートにご協力いただき、広く情報を頂戴したいと考えております。いただいたご回答は、東京都作業療法士会地域包括ケア対策委員会にてデータ集計を行います。個人情報保護に配慮し、結果は都士会ニュースやホームページでの公表、日本作業療法士協会へ報告するための基礎資料として活用いたします。ご協力よろしくお願いいたします。



https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSeMKfr8G7FZ4NM-S-4MV6nB-Pc5cAIjf3FtAJE5-nuRz0fB6g/viewform?usp=sf_link

こちらのQRコードまたはURLからご回答ください。

委員会としての今後

認知症の人と家族の生活支援委員会委員

なごみの里 上村 淳

7月に委員会としての年間計画事業の一つ「東京都作業療法学会」において、委員3名の発表研修を中心に、無事終わることができました。各委員も様々な取り組みや研究をしており、皆様にとって参考になったのではないのでしょうか？

他に当委員会の事業として、「都民への広報（認知症フォーラム）の開催」「作業療法士に対してのアップデート研修の開催」などがあります。コロナ感染が落ち着けば徐々に再開できているのではないのでしょうか？また、「各委員や作業療法士の皆さんが各所属地区での認知症に作業療法」の実践なども多くあると思います。機会があれば数多くの事例を紹介させていただきたいと思います。

以前よりお付き合いさせていただいている川崎市立宮前図書館 館長 舟田彰氏の「認知症にやさしい本の紹介」や「図書」と認知症への取り組みなども継続してご紹介させていただきます。今後は、新聞社との認知症防止への取り組み計画もあります。より一層東京都作業療法士会所属の皆様にとって充実した内容が提供できるよう当委員会は委員一致団結して取り組みますので、ご期待ください。

また、皆様からも「認知症についてこんな取り組みしているよ」「こんな研修してほしい」「日々の認知症作業療法実施のなかで困っていること（嬉しかったこと）」など、是非皆さまの声をお聞かせください。お待ちしております。

認知症にやさしい本の紹介 VOL.35

川崎市立教育委員会 川崎市立宮前図書館 館長 舟田 彰

麒麟模様の馬を見た～目覚めは瞬間の幻視から～

小野賢二郎（昭和大学教授）/監修 三橋昭（レビー小体型認知症当事者）/著

宮前図書館では年数回、市の若年性認知症サポートデスクと連携し、「本人会議」を実施している。その際にゲスト参加した、著者の本を紹介する。レビー小体型認知症である著者は自分の見る「幻視」をイラスト化し、その絵を交えながら、今の気持ちなどを綴った本人の体験記である。イラストはとても素朴で、ちょっとユーモアのある作品に描かれ、興味深く見ることができた。この本のタイトルも自分の見た「幻視」からつけた。著者は朝方、わずかな瞬間、ほぼ毎日「幻視」を見るようだ。実際に診断された2019年の前からすでに体調の変化としてパーキンソン病の症状があったため、医療機関で検査を行う診断結果はレビー小体型認知症であった。文中には『一応覚悟はできていたので動揺はほぼありませんでしたが、「やっぱりそうか」との諦めにも似た思いもありました』。そして、あるイベントで認知症であることをカミングアウトすることになるが、その後は周囲へ何の緊張もなくなったという。その後も仕事を続け、地域の中で積極的に地域活動を続け、家族やその活動仲間と共に前向きな生き方をしていることが読み取れた。最後に幻視が自分の人生をプラスしてくれると捉えており、同じ症状の方の参考になればと締めくくられている。

介護保険における軽度者（要支援，要介護1）への福祉用具例外給付について

1. 軽度者への福祉用具貸与について

福祉用具は、介護保険の施行後、要介護者等の日常生活を支える道具として普及している。その一方で、要介護度の低いものに対する特殊寝台、車椅子の貸与など、その必要性が想定しにくい福祉用具が給付される事例がみられ、平成18年4月から以下の種目については介護保険給付の原則対象外となっている。

軽度者が原則給付対象外となる福祉用具	
・車椅子及び車椅子付属品	・特殊寝台及び特殊寝台付属品
・床ずれ防止用具及び体位変換機	・認知症老人徘徊感知機器
・移動用リフト（つり具部分を除く）	・自動排泄処理装置

※ 自動排泄処理装置は要介護2及び要介護3の者も原則給付の対象外

2. 福祉用具の例外給付の適用について

上記の原則的な取り扱いに合わせて、給付の対象とならない軽度者についても、以下の3つの要件を満たすことで例外的に福祉用具貸与の算定が可能である。

- ① 医師の医学的な所見（主治医意見書、医師の診断書など）に基づき、告示で定められている福祉用具貸与が必要な状態であると判断していること
- ② ケアマネジャー等がサービス担当者会議等を通じた適切なケアマネジメントにより福祉用具貸与が特に必要であると判断していること
- ③ 上記①②について、書面等で市区町村が確認し、要否を判断した場合

（参考文献）公益財団法人テクノエイド協会：社用具プランナーテキスト【第9版】、P187-192.

福祉用具部から動画配信のお知らせ （6月12日研修内容「メーカーさんから教わる選定ポイント」）

都士会ニュース7月・9月号でご紹介いたしましたが再度案内させていただきます。

6月12日に感染予防に配慮しながら福祉用具部主催の対面型研修「居室～玄関・アプローチ編」を開催致しました。メーカーさん9社（ホクメイ、モルテン、アロン化成、矢崎化工、パナソニック、シコク、モリトー、新光産業、アサヒケアサポート）の方に、商品の説明、選定ポイントや実際の事例紹介と実機体験することで、明日から現場で活用できる内容となりました。今回、「研修に参加したいが、感染のリスクから研修に参加できない。動画での配信が出来ないか？」などの問い合わせが多数ありました。福祉用具部で検討し研修内容のポイントを動画配信致します。

視聴の流れ

tokyo.ot.yougu@gmail.comへ件名【動画視聴希望】として①氏名 ②協会会員番号を記載してメールを送る → 会員情報を確認後パスワードをお知らせします

※視聴は、12月28日まで可能です。



高次脳機能障害の方の自動車運転支援を どう考えるか

自動車運転と移動支援委員会委員 青木 佳子

平成26年に道路交通法が一部改正され、一定の病気になった方の免許取得、また免許更新時に症状に関する申告が義務付けられ、虚偽申告の際は罰則が設けられました。また令和4年5月には診断書提出命令の対象拡大が施行され、診断書提出命令不履行者は免許停止（保留）処分の対象となります。道路交通法における制度の理解をした上でOTとして移動能力・自動車運転の評価に関わることが重要となります。

高次脳機能障害の方にとっても自動車運転は社会参加、社会復帰のための重要な手段になります。一方で高齢者や脳卒中・脳外傷者の自動車事故は大きな課題となり、運転再開において安全運転に必要なとされる一定の基準が必要になります。臨床現場では、その方の社会参加を考える上で運転再開また免許取得に向けてどのように評価や考え方をすべきか…日々難しいと感じることが多くあります。そんな臨床での悩みを少しでも解決するため、今回、下記の研修会を企画致しました。ぜひ皆様のご参加お待ちしております！

【高次脳機能障害を持つ方への自動車運転支援の基本講座】

講師：渡邊 修 先生（東京慈恵会医科大学リハビリテーション医学講座 教授）

日時：令和4年11月18日（金）19:00～21:00

開催方法／定員：ZOOMによるweb開催／定員90名

内容：脳卒中や頭部外傷により高次脳機能障害を持つ方の基礎的な知識



高齢者の交通安全対策に関する調査

内閣府で実施された調査研究事業「高齢者の交通安全対策に関する調査」が、内閣府のホームページに掲載されています。日本作業療法士協会 運転と作業療法委員会の藤田委員長が有識者として参加し、高齢運転者が安全に運転を続けるための教育プログラム「体操プログラム及び運転チェックリスト」が作成されました。皆様、ご一読ください！

就労支援委員会からのお知らせ

東京都立大学 就労支援委員会 牧 利恵

「日本語版職業リハビリテーション質問紙（WORQ-J）のご紹介」

就労を、社会の中で自分の役割を果たすことだと広くとらえるなら、多くの作業療法士がそれに関わっていると思います。就労支援に携わる作業療法士の皆さんは、どのような評価を行っていますか？観察をはじめ用紙や物品を用いるものなど評価方法は様々ですが、今回は、それらの評価の中から患者立脚型アウトカムの一つとしてとして使用されているWork Rehabilitation Questionnaire（以下、WORQ）についてご紹介したいと思います。

WORQはICF for Core Set for Vocational rehabilitationをベースとした質問紙で、基本情報や環境因子について問うPart 1 と、心身機能および活動と参加領域の質問42項目からなるPart 2 で構成されています。

メインとなるPart 2では、自身の過去1週間における問題の程度を「0 = 全く問題なし」から「10 = 最大の問題」の数字で表していきます。例えば質問項目1の「1日中疲れていて、元気が出なかったこと」に対する数値が小さいほど問題の程度は低く、質問項目に対して問題を感じていないことを表します。反対に、数値が大きいくほど問題の程度は大きく、質問項目に対して多くの問題を感じていることを表します。主観をもとに回答していただくので、回答者の感じている問題を把握したり、支援者の評価との差異を比較したりすることが可能です。

WORQは現在13か国の言語に翻訳され、世界中で幅広く使用されています。日本語版WORQ（WORQ-J）も、信頼性や妥当性の検討を始めた研究が行われており、<https://myworq.org/index.php>から誰でも閲覧・使用できるようになっています。是非一度、目を通してみてください。

生き心地の良い町 この自殺率の低さには理由がある（岡檀 講談社2016）を読んで

広報部長 水口 寛子

図書館で見つけた本をご紹介します。区立図書館で災害対策関連の書物を探していると、災害のブースと社会問題（自殺、DV、薬物など、）が同じ棚にあり、ふと目についたので手に取ってみました。

著者は看護師さんで和歌山県立大学保健学科で講師をされている方でした。慶應義塾大学大学院博士課程における研究として、自殺希少地域（自殺率の低い町）でその要因について研究されたその全容が書物となったものでした。

「自殺率の低さに関与する要因を探す」研究の対象地域は、四国の徳島県海部町（市町村合併で2006年には海陽町の一部となった）のことでした。その海部町や同じような地域にありながら、自殺率の高い近隣の町などに実際にしばらく滞在し、「フィールドワーク」の形で進んでいきます。住民と直接かかわる中である仮説がいくつか浮かんできたようです。それらを確認するため、研究の手法に則って住民に対してアンケートが実施されます。その手法も気が遠くなるような手順を踏まれ、研究自体の信頼がおける部分もこの本の魅力でした。その中で、ずばりこれが自殺要因の低さに寄与しているのでは、という項目は以下でした。



町で見つけた5つの自殺予防因子

- ・いろいろな人がいてもよい、いろいろな人がいたほうがよい： 排他的傾向が少ない
- ・人物本位主義をつらぬく： 学歴や年齢によらず、問題解決能力を重視する
- ・どうせ自分なんて、と考えない： 自己効力感が高く、主体的に社会にかかわっている
- ・「病」は市に出せ： 病気だけでなく家庭のトラブル、事業の不振など些細な問題も隠さず公にする、「あんたうつになっとるとの違うん？早よ病院行き」と気楽に話し、助け合いの精神が根付いている。援助希求に対する抵抗感が低い。問題の早期発見はリスクマネジメントになっている
- ・ゆるやかにつながる： 隣近所での粘質な関わりはなく、基本は放任主義、必要があれば過不足なく援助するという関わり

その他、海部町の歴史的な背景も指摘されていました。多くの方が移住者であり、元々多様性のある地域であること、地形的有利な点により、地域のコミュニティ施設へのアクセシビリティが良好であることが挙げられていました。同じような規模の町であっても山間部であると地域のコミュニティ施設へのアクセシビリティが不良となり、住民の多くは自分が病気や障害を持ったら色んなことを諦めるしかない、と覚悟しているようでした。

コミュニティという意味では例えば所属している職場にも当てはまる気がしました。働きやすい職場としても上記の5つの因子が大事のように思いました。まずはそこから始めてみようと思いました。地域づくりに直接関わっておられる会員の方の実践報告、お待ちしております。ぜひご一読を！

ブロック活動のお知らせ

区西北部ブロック（練馬区，板橋区，北区，豊島区）

安達 明完

2021年10月よりブロック活動に参加させて頂いています、日本大学医学部附属板橋病院の安達と申します。ブロック活動を通して、職場外・西北部ブロック外のセラピストの方々と協力させていただき、自身のOTとしての知識を広げたいと考えております。また、ブロック委員として、西北部・都士会に少しでも貢献できるよう尽力いたしますので、どうぞよろしくお願い致します。

2022年度の下半期の活動としては、「就労支援」をテーマに研修会を企画しております。ブロックの皆様をはじめ、他ブロックの多くの皆様にも、ぜひご参加いただきたいと思っております。詳細が決定次第、都士会ホームページ等で発信させていただきますので、ぜひご確認ください。

西多摩・南多摩ブロック（瑞穂町，福生市，羽村市，あきる野市，青梅市，日の出町，奥多摩町，桧原村，八王子市，日野市，多摩市，稲城市，町田市）

今泉 幸子

西多摩・南多摩ブロックは、都学会運営を終えてしばらく充電期間を経て、また新たな運営メンバーを迎え、10月より活動を再開いたしました。今年度後半の企画といたしましては、都学会を振り返りつつ味わうような、学びと交流の企画を2月頃に開催したいと考えております。詳しくは順次ご案内をさせていただきます。

☆ブロック活動へのご意見・ご要望・ご質問はこちらまで ⇒ swtamaot@gmail.com

区中央部・南部・島しょブロック（港区，千代田区，文京区，台東区，中央区，品川区，大田区，島しょ部）

阿部 幸太

7月に「当事者とその家族の語りから学ぶ社会復帰までの道のり」というブロックの勉強会を開催し、講師に当事者とその家族をお呼びしました。参加者からは「当事者の声を生で大きくことができ大変よかった」といった感想や「続編もぜひ」との声もきかれ、盛り上がりのある勉強会となりました。

このような勉強会の企画、ブロック活動を通じた人との繋がり、さらなる作業療法の広がりといった活動を一緒にして下さる方を募集しています。

また、来年度の都学会の実行委員は当ブロックが担当することになりました。学会運営をお手伝いいただける方も合わせて募集いたします。興味のある方は、ぜひ一度連絡をよろしくお願い致します。

連絡先：ku.chuou.nanbu.ot@gmail.com

東部・東北部ブロック（墨田区、江戸川区、江東区、足立区、葛飾区、荒川区）

杉谷 翔

2022年9月22日に住宅改修の勉強会を開催致しました。

新型コロナウイルス流行により、退院前の家屋評価や住宅改修を行う事が出来ていない若手のセラピスト、学生さんを対象にした研修内容です。“その人らしい支援のあり方”をテーマに、住宅改修の概要、回復期、生活期からの実践報告、コロナ禍における工夫などなど、大変有意義な研修会でした。当日の参加者は66名で理学療法士や教員、学生さんなど、幅広い方々に受講頂きました。その中でも印象に残ったフレーズは【解決よりも課題の整理】という言葉です。

家屋訪問に伺った際に、患者、ご家族、その他関係者を前に療法士として判断を迫られた際に皆様はどのような提案を行いますか？患者、家族の大切な“お城”で満足した生活の提案を行うには包括的なアセスメントが必要で、一人ではなくチームとして解決する事が重要です。様々な制約の中で多岐多端な毎日ですが、そういう時こそ、一旦深呼吸をして課題の整理をしてみたいかがでしょうか。

北多摩ブロック（武蔵野市、三鷹市、調布市、狛江市、小金井市、府中市、清瀬市、東久留米市、西東京市、東村山市、小平市、国分寺市、国立市、立川市、昭島市、東大和市、武蔵村山市）

原田 祐輔

9月29日（木）に「精神科領域での身体リハビリテーション」と題して、研修会を開催いたしました。講師の方々には概論・実践報告という形でご講義をいただき、参加者の方々からも積極的にご質問をいただきました。

北多摩ブロックでは、領域に限らない幅広い交流・情報発信を目指して、さまざまな活動を企画・開催しています。気兼ねなくご参加いただけますと有難く存じます。

☆北多摩OTチャンネル（Slack）～ツナガルバ～ →交流・情報発信ツールブロック内に限らず、多くの作業療法士の参加登録をお待ちしております。

メールアドレス：ot.kitatama@gmail.com

※お名前、所属施設を記載の上、上記アドレスにメールを送ってください。後日、SLACKの招待メールを返信させていただきます。

また、北多摩ブロックでは私たちと一緒にブロック活動を盛り上げてくれる方を募集しています。まずは、様子見でも構いません！ご興味のある方は上記メールアドレスまで連絡をお願い致します。



西部西南部ブロック（新宿区、中野区、杉並区、目黒区、渋谷区、世田谷区）

春口 麻衣

皆さまこんにちは！西部西南部ブロックは新しいメンバーも迎えてワイワイと活動しております。このところ取り組んでいるテーマは、本年度に開催を予定している研修の準備について、です。本年度、『認知症アップデート研修』は西部西南部ブロック担当で開催致します！当研修では、“認知症の人と家族の生活支援委員会”の皆さんから、日本作業療法士協会からの最新の情報を含めた講義を受けられる他、明日からの支援に活かせるような企画を計画中です。楽しく、学び多い研修です。楽しみにしておいてくださいね！年が明けた頃に都OT士会のホームページ等で募集を開始する予定です。要チェックです♪

西部西南部ブロックへの問い合わせはこちら！ seibuseinanbu.ot@gmail.com

第19回東京都作業療法学会実行委員会が 発足されました

学会長 順天堂大学医学部附属順天堂医院 阿瀬 寛幸
学会実行委員長 東京都立荏原病院 大村 隼人

2022年8月18日に、次年度に行われる「第19回東京都作業療法学会」の実行委員会が発足されました。本学会は区中央・南部ブロックが担当することになっており、実行委員会もブロックのメンバーで構成されています。現在は、どのような学会にするのかテーマを検討している段階ですが、当ブロックならではの地域特性を活かしつつ、どのような領域の方でも参加したくなる学会を作るべく知恵を絞っています。また、企画については、実行委員会の中で様々なアイデアが挙がっていますが、参加される皆様からの声も反映させていきたいと考えています。そこで、東京都作業療法士会HPに学会に関するアンケートフォームを作成しました。参加される皆さんと一緒に学会をデザインしていけたらと考えておりますので、学会に関する忌憚のないご意見・ご要望をいただきたいと思っております。最後に、本学会の開催日と開催方法について以下の通りに決定しましたので、ご案内いたします。

開催日 : 2023年7月23日(日)

開催方法: 現地開催+オンデマンド配信(開催場所は現在調整中)

これからも学会に関する案内を、都士会ニュース、HP、SNSなどで発信していきますので是非ご注目下さい!

編集後記

広報誌OTO発行に向けて活動中です。OTOの取材を含め、最近では、職場以外で作業療法士の活躍を目にすることが多く、改めてOTっていいな～って思っています。もっともっと生活に困っている人、楽しみを奪われている人、生きづらさを抱えている人に寄り添える存在になりたいと思います。中里さんが書いてくださった、通所C受託事業を読んで、OTの介入で参加者の方の主観的健康感が向上したのが印象的でした。気持ちが前向きになった、やりたいことが出てきた、というのは一番聞いて嬉しい言葉ですね。

広報部部長 水口寛子

※ニュースに掲載されている写真は、ご本人の同意を得たうえで掲載しています。

◆東京都作業療法士会 事務局

〒160-0022 東京都新宿区新宿5-4-1 新宿Qフラットビル501号室

TEL: 03-6380-4681 FAX: 03-6380-4684

◆東京都作業療法士会ホームページ <http://tokyo-ot.com/>

◆東京都作業療法士会ホームページ窓口 postmaster@tokyo-ot.com

※お詫びとお願い: 現在事務局での電話対応が困難な状況にあります。

ご質問・ご連絡は、FAX・メールにてお願いいたします。